

# 学界消息

## 史学研究会

大会 一月一日(日)午前二〇時—午後三時

時 文学部史学科陳列館開放・史料展覧

一月二日(月)午前九時 於薬友会館講演室

開会の辞

総会 会務報告 佐伯・藤岡両理事

講演

古墳群調査の問題点

横山 浩一

(共同研究)

大阪を中心とした都市群の形成

藤岡謙二郎

備兵制度の歴史的研究——その経過と成果——

前川貞次郎

会田 雄次

(共同研究)

近畿地方農・山村の歴史的・民俗学的について

柴田 実

明代蘇松地方の士大夫と民衆

宮崎 市定

一月二日(月)午後六時 晩餐会

参加者は二百名をこえる盛況であつた。

例会 二月五日(土)午後一時

楠瀬 勝

形勢の変質——南北朝動乱の歴史的意義——

小野川秀美 章炳麟の民族思想

京大國史関係

恒例により、読史会大会は、一月三日、京大文学部第一教室で行われた。例年より参加者はやや少なかつたが、それでも左掲のような多彩な内容と発表者により、大会は進

行した。とくに、広島大学から河合正治氏の発表をえたことは喜ばしいことであつた。だが、いま一つ討論が活潑にならなかつたことは、今年の反省をかねて、来年への課題とすべきであらう。

開会の辞

外來神信仰について

薬子の乱の史的位

赤松 俊秀

吉川 正通

門脇 棧二

土地制度の改革と農民の生活

内田 龜雄

肥前山内の郷土

寛政の改暦をめぐる

西洋列国史略について

光明皇后御願一切經と東大寺聖語藏

融通念仏と六斎念仏

快慶と重源

戦国大名としての毛利氏の性格

和泉国近木庄について

我国における化学纖維工業の發達について

古代社会における文化変容の一例

閉会の辞

大会後、午後六時より黎明会館において、懇親会をもち、約六〇名の参加をえ、和氣あいあい裡に散会した。

読史会例会 一月二八日(土)

明治時代の郵便制度

明治前期の労働運動

天野 安治

山本 四郎

京大東洋史関係

羽田亨博士の文化勲章受賞 去る昭和二十八年十一月三日文化の日、東洋史学界の泰斗、とくに西域史の研究に他の追従をゆるさぬユニークな足跡をのこされた羽田亨博士は、本年度の文化勲章を受賞された。ここに祝意を表し、あわせて後進の指導を切望したい。

東洋史談話会大会 一一月三日 於京大人文科学研究所講堂

間野 潜龍 「明代の家規について」

菊地 英夫 「五代禁軍の外屯駐について」

米田賢二郎 「漢代辺境兵士の給与について」

藤本 勝次 「イブン・ハルドゥーンの子王朝論」

今堀 誠二 「宋代における社会事業の性格について」

佐口 透 「コーカンド汗国の東方政策」

水野 清一 「仰韶と殷墟」

板野 長八 「孝経の成立」

学 界 消 息

杉本直治郎 「マルコポーロのラテン語訳

初版とコロンブスの書入れ」

大学院懇親会 一一月一四日

塚本 俊孝 「南唐王室の仏教信仰」

東洋史研究会 十二卷三、四号合評会 一〇

月二九日(木) 於人文科学研究所会議室

人文科学研究所開所記念講演会 一一月一四

日(土) 於京大人文科学研究所講堂

天野元之助 「中国農業の展開」

京大西洋史関係

西洋史読書会大会 史学研究会大会の一環

として行われた西洋史読書会大会は恒例通り

一一月三日京大楽友会館で開催され、本年度

は多くの他学講演者を迎え盛会裡に終った。

前日の史学研究会大会においては西洋史関係

の発表者として前川貞次郎氏、会田雄次氏の

「傭兵制度の歴史的研究」なる総合研究の成

果報告が行われたが、三日の発表者は左記の

通り。

森岡敏一郎(慶大) 「ヘンリー三世末年に

おけるバロンズの動向とイギリス封建勢

力」

藤原 国男(京大) 「黒死病と十四世紀の

イタリア絵画」

川口 博(京大) 「百年戦争とノルマン

ディー」

越智 武臣(京大) 「十五世紀英国社会の

一様相」

益田 健次(山口大) 「カルヴァンの思想

の形成」

紀藤 信義(広大) 「一六二四年の独占条

令について」

川村 大膳(関学大) 「ロバート・グレゼ

イルの自由思想について」

前川貞次郎(京大) 「革命裁判所の成立を

めぐって」

岸田 達也(名大) 「ウェーバーのマイヤ

ー批判について」

西洋史読書会例会 一一月二七日

中村 哲雄 A. M. Schlesinger, The Age

of Jackson.

大石 敏 W. Machl, The Triumph of

Nationalism in the German So-

cialist Party on the Eve of

the First World War.

一〇才

京大地理学関係

地理学談話会大会 十一月三日 於京大文学部第八教室

井関弘太郎 「日本デンマーク地帯の農業構造——組合制度の意義について——」

三友国五郎 「薩南諸島の歴史地理」

共同研究 都市域の山村調査(その一)  
——京都市旧花背村・久多村を中心として——

藤岡謙二郎 「A調査に関する前言及び集落と交通の変遷」

西村 睦男 「B人口とその変遷」

小池 洋一 「Cの一、経済構造の概観及び林業」

浮田 典良 「Cの二、農業の推移」

末尾 至行 「Cの三、労働と経済生活」

石川 栄吉 「D、社会生活の展望」

終了後嵐山にて懇親会を催す。  
人文地理学会大会 十一月一日 於京大文学部  
福永 正三 「町村合併に伴う新行政地域の名称について」

林 正巳 「町村合併に表われた地域性」

勝目 忍 「鹿児島港の商圏について」

前川 宗男 「滋賀県の農業様式について」

梶谷 輝雄 「近江盆地における米作主要産地の変遷」

松田 峻 「高原開拓の自然性と人文性」

樋口 節夫 「大阪の露店ヒラビとホーエその地理的配布」

細井 淳一 「東日本における密柑栽培地帯の農家構造の変遷過程について」

斎藤 晃吉 「後進地域農村の問題」

末尾 至行 「フランス農村工業地域研究」

武井 鏡一 「カリフォルニア中央平原の灌漑汚」

小池 洋一 「南山城の水害について」

千葉 徳爾 「近畿諸盆地周縁のはげ山について」

稲見 悦治 「断層崖の土地利用」

岡本 啓志 「旧軍用地の土地利用」

内田 寛一 「現行割審制の一例」

木下 良 「人口移動に関する一考察」

堀川 侃 「通婚圏とその拡大」

山崎 禎一 「一九三七—五一年間の世界国別人口の一研究」

石田 寛 「漁村の社会地理学的考察」

中田 栄一 「近郊山村の地域構造第三報」

須藤 賢 「中門造民家の発生と普及」

田中 秀作 「北海道都市におけるフロンティア性」

檜原 只好 「アレクサンドル以前におけるアラビア周辺の海上交通について」

金子 廉 「地理学史の一こま」

伊藤 安男 「日本石器時代集落立地に関する二、三の問題」

矢守 一彦 「城下町の成立」

池浦 正春 「町人請負新田の地割構造」

西村 嘉助 「山地における交通形態の変化と町村の分合」

福井 好行 「王朝時代の阿波の集落」

谷岡 武雄  
山田 安彦  
佐々木 清治

「東播平野における条里」  
「大井川三角洲における新田  
集落の分布」

松本 博

「宍道湖水位についての一考  
察」

人文地理学会第三回例会 十二月十二日 於  
大阪市立美術館講堂

位野木 寿一 「大阪の河川網と渡船網」

川喜田 二郎 「ネパール見聞談及び幻燈映  
写」

### 京大考古学関係

考古学談話会 十一月三〇日（月）後三時

於楽友会館

岡崎 敬 「北海道旅行談」

陳 顯明 「岡山県月の輪古墳について」

鈞田 正哉 「最近の平城宮址における発  
見」

坪井 清足 「佐賀県水田遺跡の甕棺調査」

### 会 員 移 動

新 入 会

巨海 哲男

杉本 嘉八

三 島 一

村山 光一

勝野 隆信

京都大学農林経済研究室

佐賀県立図書館

### 住所變動

有坂 隆道

笠原 一男

川上喜代四

岸本 進二

田中 健夫

土井 仙吉

村尾 一夫

山本 守

横田 健一

死 亡

守屋 孝蔵

安河内 博

### 編 集 後 記

年末年始に重なつて少し発刊の遅れていた  
史林第三七巻第一号がいよいよ会員諸兄姉の  
許に届けられることになりました。各位の御  
援助によつて発刊を遅滞させていた諸般の事  
情も漸次克服され、本年度からはまた新しい  
編集委員の陣容を揃え、懸案の隔月間発行を  
も望み得る段階に達しましたことを、われわ  
れは大いなる喜びとしています。本号は巻頭  
に赤松俊秀氏の新史料による座の研究を得ま  
したが、けだしこの研究分野における問題作  
たるを信ずるものであります。また最近いろ  
んな史学雑誌において西洋史関係論文の貧困  
が目立つときに瀬原義生氏の所論をえたこと  
も幸いであり、ドイツ農民戦争についての問  
題点を更に凝結させたものとして注目される  
のであります。村田教之亮氏の学界動向は氏  
の著実な作風を示すものであり、石川栄吉氏  
の新鋭なそれと玩味されんことを期待しま  
す。

（越智）